第26回
「のぞみ」に乗った営業秘密
小原アドバイザー

突然の記者来訪

新型ウイルスが猖獗（しょうけつ）を極める中、多くの皆さんの企業・組織と同様に、私たちの所属するINPITも、「在宅勤務」が「新しい日常」として定着し、職場の雰囲気が見えぬまま出勤することも少なくありません。

先日、出張・在宅勤務の続いた後、出勤すると、上長から「昨夜遅く雑誌取材のオファーがあり受けるコトになった。急なことだが同席してほしい。」と告げられ、とにかく提供できそうな資料をかき集め、インタビュー会場の会議室に赴きました。

そして取材がスタート

取材を受けたのは、東海道・山陽新幹線に乗車すると「時代の先端を行く雑誌」とのキャッチコピーがアナウンスされ、車内ワゴンサービスや駅キオスクで販売されているビジネス誌です。

部長代理以下の事務方、私を含む複数のアドバイザー、計数名が仰々しく待ち受けているのに、記者は少し驚いた表情でした。

我が国メーカーのハイテク技術が中国へ漏洩した直近の複数の事件に記者の関心が深く、私たちの窓口が扱ってきた「警察連携事案」についてネタ取りをしたい意向が窺えました。記事にすれば読者の興味を強く惹くであろう、記者が大喜びで飛びつきそうな、私自身が関わった事案がいくつかありました。

しかし「事件が起きたコト自体が企業秘密」ですから、そういった話題を軽々に提供することは、秘密厳守が大前提の職務ゆえ当然許されません。

話題提供に腐心し

冒頭に、組織の成り立ちや、相談窓口の業務概要・体制について上長がプレゼンし、次いで、全国各地の企業を日々訪問しているアドバイザーが、投げかけられる質問に、それぞれが肌で受け止めた印象を加えながら回答していきました。

しかし、時間の経過と共に、なんとなくインタビューが低調になってきたように、私には感じられました。「いかん！一世一代の窓口PRの場を、この流れのままシュリンクさせる訳にはいかない。なんとかせねば」と、警察沙汰以外の、自分が手がけた様々な具体的業務にアタマを巡らし、

◇全国を見渡すと、相談案件は（新幹線が走っている）愛知県が圧倒的に多い。
◇コロナ禍以降、アドバイスを求めて来る会社の質が明らかに変わってきている。
◇自社の技術情報を守るため、米国ベンチャー等がやっているように、個々の技術者が扱える情報をマトリックス表にして、より厳密な管理を実践し、それが漏洩対策にもなっている中小メーカーもある。
◇感染症対策でテレワークを実施する際には、営業秘密管理が必須であることを、様々な地域の広報誌等に寄稿し強く訴えたところ、全国から大きな反響があった。
◇営業秘密管理に取り組んだことで、「自社重要情報の見える化が図られ、事業承継に大いに役立った」と経営者に感謝されることが少なくない。

等々、記者の興が醒めぬよう、思い浮かんだ実例を次々に述べ立て、また、同僚アドバイザーも前職での経験を含めた展示会での要注意アイテムなどを披露し、1時間弱の取材が終了しました。

本資料に関する著作権は（独）工業所有権情報・研修館に帰属します。
本資料を許可無く複製、転載することを禁じます。

のぞみよ「経営者に届け」

　インタビューから2週間弱で職場に届いたできたての雑誌には、特集記事の中で、私たちの窓口業務が詳しく紹介され、一心不乱に説明したコメントも、私の名前・職名と共にシッカリと記事になっているのを確認し、ホッとしました。
　この雑誌は、新幹線グリーン車全座席のポケットに最新号が常備され、グリーン車の乗客は自由に読むコトができると聞きました。きっと、「のぞみ」で東京－博多太平洋ベルト都市間を精力的に行き来する様々な企業経営幹部の目に留まることでしょう。記事を読んでいただき、一人でも多くの方の「我が社でも営業秘密管理に取り組むべきかな」という気付きに繋がってほしいという私の「のぞみ」が叶うことを、企業訪問で頻繁に乗車する新幹線「普通車」のシートから願っています。

※記事は、次のリンクからご覧いただけます。
「Wedge」1月号『狙われる技術大国・日本、企業の「営業秘密」を守るには』

記事公開：2021年 1月12日

会社内の秘密情報の取り扱いについてお困りごとがあれば、営業秘密支援窓口までご相談ください。

独立行政法人　工業所有権情報・研修館
知財戦略部　エキスパート支援担当
Tel：03-3581-1101（内線3823）
Mail：ip-sr01@inpit.go.jp

本資料に関する著作権は（独）工業所有権情報・研修館に帰属します。
本資料を許可無く複製、転載することを禁じます。